

公益社団法人 **長野県林業公社「第2次経営改革プラン」**

令和3年度の実施状況

(令和4年3月31日現在)

I 森林整備の推進による森林資源の充実と実行体制の強化

1 公社契約地森林資源の適切な評価と森林整備目標

【計画】 施業地カルテの内容を補完する現地調査を実施し、契約地の適切な現状把握により「山づくりの目標」を定め、適切な森林整備と主伐への準備を進めていきます。

【実績】・木材センターで流通する原木の見立てや公社団地内の立木の見立て等についての2回の職員OJT研修を通じ、社営林の評価基準等について議論を進めました。
・検討を基に新たな評価基準を定め、調査を進めました。

カルテ補完調査実施計画及び実績

(単位:団地)

	R3	R4	R5	R6	R7	合計
計画	50	50	50	50	50	250
実績	17					

【方針】 引き続き、現地調査により森林整備目標を定めていきます。

2 森林整備の推進による森林資源の充実
3 コストをかけない路網維持と技術力向上

【計画】 必要な施業を効率的、効果的に実施します。また、計画的・低コストな路網の整備・維持管理と、職員の路網整備技術の向上を進めます。

【実績】 間伐・獣害防除・作業道開設等実施計画及び実績

		R3	R4	R5	R6	R7	合計
保育間伐 (ha)	計 画	245	220	180	140	100	885
	実 績	180					
搬出間伐 (ha)	計 画	13	30	50	50	50	193
	実 績	6					
獣害防除 (ha)	計 画	184	160	130	100	70	644
	実 績	185					
作業道開設 (m)	計 画	1,500	3,000	7,500	7,500	7,500	27,000
	実 績	573					
作業道補修 (m)	計 画	4,000	4,500	5,000	5,000	5,000	23,500
	実 績	4,038					

- ・ R3年度の森林整備は、8～9月の豪雨災害による林道等の通行止めによる保育間伐の中止や、利用間伐の不落などにより、計画量を下回る結果となりました。

【方針】 今後は、早期発注や複数年度契約、また共同の森林経営計画等に基づく事業体の協力を得ながら、事業を推進していきます。

4 更新伐など主伐に向けた時期、方法の検討

【計画】 研究機関と連携するなど、更新方法について検討を進めます。

【実績】 令和3年度は、他県公社の取組状況などの情報収集に努めました。

【方針】 針広混交林化や森林経営管理制度の活用など、他県公社の具体的な取組の情報収集に努めます。

5 ICT 技術を活用したスマート林業導入

【計画】 ドローンによる調査技術の活用や、新たな調査技術の導入・検討を進めます。

【実績】 社営林の調査及び調査技術の向上のため、ドローンを活用しました。

- ・ ドローンを活用した現地調査（空撮）を含む受託事業を3件受注しました。
- ・ 高い精度の衛星測位機器を導入しました。

【方針】 来年度以降の社営林管理や受託事業等に活用していきます。

Ⅱ 受託事業の拡充による市町村等への支援と人材の育成

6 受託事業を通じた市町村等への支援

【計画】 公有林の調査・測量等の受託、森林経営管理制度に伴う調査等の受託を目指します。

【実績】 受託事業一覧

事業名	委託元	受託額 (円)
佐久穂町森林整備事業 更新一貫施業 調査・測量委託業務	佐久穂町	5,731,000
佐久穂町森林整備事業 更新一貫施業 設計・監理委託業務	〃	1,287,000
森林経営管理意向調査委託	軽井沢町	1,670,900
森林経営管理意向調査業務委託	御代田町	506,000
森林環境譲与税活用事業 森林経営管理意向調査業務委託	立科町	737,000
森林経営管理制度意向調査分析業務委託	坂城町	1,321,100
森林経営管理制度意向調査分析業務委託	飯綱町	779,900
県営林現況把握調査事業業務	長野県	9,790,000
計		21,822,900

- ・ 令和3年度は、引き続き佐久穂町有林の森林整備事業に関する業務を受託しました。
- ・ 軽井沢町、御代田町、立科町、坂城町、飯綱町の5町から、地区住民に対する「森林経営管理意向調査」を受託しました。
- ・ ドローンを活用した県営林の林分解析等の業務を県から受託しました。
- ・ この結果、受託額が初めて2,000万円を超えました。

【方針】 引き続き公社の強みを生かした受託事業の確保に向け、県、市町村等に積極的に働きかけていきます。

7 主伐に向けた職員のスキルアップ、機材の充実

8 業務量に見合った職員配置

【計画】 各種研修の受講等を進め、職員のスキルアップに努めます。

【実績】 令和3年度は、延べ31人日のプロパー職員が、森林作業システムや無人航空機活用技術など、14回の国・県等の研修を受講しました。

【方針】 ・ 引き続き、国・県等の各種研修を積極的に受講します。
 ・ 受託事業の確実な遂行のため、必要に応じて職員配置を検討します。

Ⅲ コストの改善に向けた取組の着実な推進

9 長伐期化の推進（継続）

【計画】 従前から良質な木材と材積量の増大に向けた長伐期化を進めており、変更を要する契約全ての期間延長を目指します。

全体計画

(単位：件)

項目	総数	変更済	変更残	R3~R7
長伐期化	1,191	1,172	18	18

【実績】

(単位：件)

	R3	R4	R5	R6	R7	計
変更契約数	1					1

- ・ 令和3年度実績の1件は、土地所有者との合意にどうしても至らなかった契約1件を解除したものです。
- ・ 契約満了日の近い2団地の現地調査を実施し、長伐期化が公社経営にとって有利かどうかの検討に着手しました。

【方針】 契約満了日に近い団地から交渉を再開するとともに、長伐期化の適否についても団地ごとに検討を進めます。

10 分収割合の変更（継続）

【計画】 累積債務の軽減に向け、主伐等に係る分収割合を土地所有者 30/100・公社 70/100に見直す変更を進めており、契約者の皆様への十分な説明を行いながら、ご理解を得て変更を要する契約全ての分収割合の変更を目指します。

全体計画

（単位：件）

項目	総数	変更済	変更残	R3～R7
分収割合の変更	1,044	738	306	306

【実績】

（単位：件）

	R3	R4	R5	R6	R7	計
目標数	60	60	60	60	66	306
実績	54					54

・ 令和3年度は木曽地域を中心に分収割合の変更を進め、目標達成率は90%でした。

・ 木曽地域は共有林の契約変更が多かったことから、目標には届きませんでした。

【方針】・ 今後、北安曇地域や上伊那地域への取組を順次広げていきます。

・ 引き続き、森林組合等に協力をいただき契約者に関する情報を得ながら、契約相手方に対しては丁寧な説明に努め、変更手続きを積極的に進めていきます。

11 経営不適地の取扱い

【計画】 バイオマス利用等の可能性があるため、契約解除対象地を精査します。

【実績】・ 令和3年度は、病虫獣害の激害地や生育不良林の不成績林分3件について契約を解除しました。

・ 今後の経営不適地の取扱いを検討するための基礎となる、社営林の評価基準等について議論を進めました（取組1参照）。

【方針】 来年度以降、対象地の精査に向け、現地調査を進めていきます。

12 事務経費等の削減（継続）

【計画】 引き続き、日常的な経費削減の取組を継続します。

【実績】・ 令和3年度は、光熱費、消耗品費などの事務経費の節減に努め、前年度に比べ1.2%削減しました。

・ これは、第1次改革プランの期間（7年間）の平均値に比べると、11.9%の削減（第1次改革プラン前と比べると38.7%の削減）となります。

【方針】 引き続き、経費削減に努めます。

IV ゼロカーボンの達成を目指した新たな体制整備

新

13 バイオマス燃料供給体制構築

【計画】 これまで評価の低かったアカマツ等の団地からバイオマス発電への供給を進めます。

【実績】 プラン期間中の目標及び実績

		R3	R4	R5	R6	R7	合計
搬出量 (t)	計 画	100	150	200	300	300	1,050
	実 績	10					
利益 (千円)	計 画	200	300	400	600	600	2,100
	実 績	30					

- ・ R3年度は、支障木（広葉樹）10 t を薪材として販売しました。
- ・ バイオマス発電への供給は、計画した団地からの材がチップ用材として出荷されたため、また計画した団地1件の入札が不落だったため、実績はありませんでした。

【方針】 来年度以降、積極的にバイオマス発電向けの材を含む搬出間伐の計画を進めます。

14 森林整備によるCO₂吸収量をJ-クレジットとして販売

【計画】 社営林の整備によるCO₂吸収量をカーボン・オフセットのJ-クレジットとして販売する取組を進めます。

【実績】 プラン期間中の目標及び実績

		R3	R4	R5	R6	R7	合計
CO ₂ 吸収量 (t)	計 画	プロジェクト の認証	600	600	600	600	2,400
	実 績	プロジェクト の審査完了					
販売額 (千円)	計 画	-	7,200	7,200	7,200	7,200	28,800
	実 績	-					
取得経費 (千円)	計 画	2,000	1,900	1,900	1,900	1,900	9,600
	実 績	200					
利益 (千円)	計 画	-2,000	5,300	5,300	5,300	5,300	19,200
	実 績	-200					

- ・ R3年度は、J-クレジット制度プロジェクト計画書を取りまとめ、妥当性確認の審査を受けた結果、適正との評価を得ました。R4年度の前期にプロジェクトの認証を受ける見込みです。

【方針】 来年度以降、モニタリング調査を行い、J-クレジットの登録・販売を進めます。